

たかしょう

1人1台PCの可能性

ICT教育推進のために、学校に「1人1台端末」が導入されたことは、単なる「デジタル化」以上の大きな可能性を秘めています。高倉小学校でも、子どもたちが「クロムブック」というパソコンを文房具のようにランドセルに入れて毎日持ってきています。

端末を利用して「個」に最適化された学びを進めています。子どもたちの理解度や学習スピードは一人ひとり異なります。本校で導入した「ミライシード」(ベネッセ)のAIドリルは、その子のつまづいている箇所をAIが分析し、その子に合った次の問題を提示します。デジタルドリルで宿題を出すと、自動採点ですぐに誤答箇所がわかります。

リコーダーや音読のテストは、動画で提出します。パソコンのカメラを自分に向けて、音読やリコーダーの動画を撮ります。失敗しても最初からやり直せます。何テイクか撮っていちばん出来のいいのを先生に送信します。何度も撮っているうちにメキメキと上達(ねらいは、これ)しています。先生の端末には、いつ、どの子が課題を出したかが一覧表で表示されるので学習状況の把握も早いです。

毎年、6年生と中学3年生が実施している「全国学力学習状況調査」は令和9年度から紙と鉛筆からパソコンで実施(CBT化)に変わります。中学校では既に理科がCBT化されました。この子たちが中学生になる頃には、英語のテストもCBT化されるので小学校のうちからアルファベットの大文字と小文字はもちろん「」(アポストロフィ)などをタイピングできるように教えることを教育委員会からも求められています。

小学校の単元末テストもCBTで実施することができます。高倉小学校ではまだやっていないので、私が試験的に5年生の理科でやってみました。問題の9割が自動採点されます。さらに個々の学習の得意・不得意がテスト結果から分析され、知識、理解、思考、判断、表現など評価項目ごとに点数化されます。通知表の記載も正確になります。

★学習を「自分のペース」で進めるために

筆算の計算など、一斉授業ではなく動画で覚えて何度も繰り返す方が効率的です。先生1人で35人はとてもさばききれません。そこで、動画による学習を取り入れたいところです。同じことを何度も先生に質問するのは子どもでも躊躇しますが、動画なら苦手な子は遠慮なく早送り再生、リピート再生など何でも見直して確かめられますし、理解が早い子はどんどん先の応用問題に進むことができます。一斉授業だと、理解が早い子は退屈だし、理解の遅い子はわからないまま授業を聞いているふりをするようになるので、算数科の計算単元など子どもによる「差」が大きい学習から個別最適化を広げていきたいなと考えています。



★石川県の和気小学校とのオンライン交流

毎年、2月に4年生と5年生で石川県の和気小学校の子どもたちとパソコンを使ってオンライン交流をしています。特に5年生は、6年生になった5月に修学旅行で対面します。まずは教室にしながら相手の顔を見て、お互いの学校のことをオンライン対話で紹介しあう活動をしています。昨年のオンライン交流会は、大阪万博のことを調べて「石川から大阪万博に来てね!」とアピールしました。6月に修学旅行で対面したときは「万博行ったよ!」という子がいて盛り上がりました。今年は、オンライン交流会の1週間前に吉本興業さんから漫才師をゲストティーチャーで呼んでいます。漫才のネタをプロのお笑い芸人に直で仕込んでもらって、大阪らしく和気小学校の友だちを漫才で笑わせる予定です。

ICT教育のCはコミュニケーションのCです。高倉小学校の取り組みの核心は、「自分の努力や才能で、他者が喜んでいる姿を見て嬉しいと感じる力を育てる」ことです。パソコンやインターネットもそのためにフル活用していきます。